

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2024
Jtitle	新版 窮理図解 No.42 (2024. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の美術：アーティスティックな観察眼を培う 外国語・総合教育教室 荒本文果 (准教授)
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000042-0011

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

真の文理融合とは？

荒木文果

2022年度から理工学部システムデザイン工学科のアルマザン・ホルへ研究室と協力して、日吉キャンパス北部地域の居心地向上を目指した活動を続けてきました。まず第5校舎跡地に「日吉パビリオン」を建設し、翌年はグリーンズテラス前の広場にオレンジ色の膜材をはって華やぎを加えました。これに関連して、日吉メディアセンター（図書館）でスタディ模型の展示をしたり、これらの活動を日吉キャンパスに関わる学生・教職員に広く公開するための講演会やワークショップも定期的に

開催してきました。その結果、北部エリアの活性化に少しは貢献できたのではないかと思います。また、アルマザン研究室が制作した「日吉パビリオン」が、イタリアの建築専門誌『Area』や『Arketipo』に掲載され、入学してきた1年生が高校生の時から本事業のことを知っていたと話してくれるなど、嬉しい反響もありました。

とはいえ、舞台裏にこそ本事業の醍醐味があるように思います。本事業は、事務の方々にもプロジェクト・メンバーに入ってもらい、それぞれの強みを生かして活動をしています。ミーティングは学生が主体で、めいめいが自由に発言しています。これまでに参加してきた様々な事業のなかで、これほど風通しの良い企画はなかったように感じますし、必然的によい

結果をもたらしています。スペインにルーツのあるアルマザン先生の存在、矢上キャンパスと日吉キャンパスの教員の協働、教員・職員・学生の垣根を超えた交流など「多様性」がこんなにもうまく機能している例はなかなかないように思います。

教育・研究活動に加えて、このような事業を進めるのは時間的にも体力的にも大変です。いつも支えてくださる日吉美術研究室の職員さんと、常に「あと何をしないといけないかしら？」と話しながら、日々目まぐるしく準備をします。それなのにイベントが終わってみると「やっぱりやってよかったね」。イベントの準備もひとつの舞台を作り上げる過程に似ています。結局、舞台の神様にとり憑かれているのかもしれませんが。

理工学 Information

「慶應AIセンター」が開所 次世代のAIをリードする研究センターへ

慶應義塾は、杉浦孔明・理工学部情報工学科教授をセンター長として、「慶應AIセンター」を設立しました。同センターは、AI・ロボティクス研究で世界トップの米カーネギーメロン大学との協定に立脚しながら、産業界とも連携をして次世代AI技術の研究を推進すべく設立されました。

2024年9月24日には開所式が行われ、キャサリン・エリザベス・モナハン駐日米国臨時代理大使をお招きし、研究に参加するメンバー企業ことほの代表者などが一堂に会し、同センターの開所を寿ぎました。



慶應AIセンターについての詳細は、
下記のプレスリリースをご参照ください。
[https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/
files/2024/9/24/240924-4.pdf](https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/files/2024/9/24/240924-4.pdf)

編集後記

今号の表紙は、荒木准教授のたっpegのご希望により、《モナ・リザ》を題材とした活人画になりました。撮影に際しては、当然《モナ・リザ》の画像と見比べながら准教授にポーズをお願いしました。その過程では、《モナ・リザ》のモデルは意外とかつぶく恰幅がいい、手の椅子への掛け方はこう、正面を向く角度はこれくらいなどと、対象の観察ならびに描写の言語化を自然と繰り返していました。撮影が終わるころには、《モナ・リザ》の今まで気にも留めなかった細部が浮き上がるように知覚されていました。インタビュー記事で先生が言及されていた鑑賞法の効果を図らずも実感するとともに、先生が取り組まれている研究のごく一端を垣間見た気がしました。

(杉原 史)

今号の表紙：《モナ・リザ》の活人画風に。

新版 窮理図解

No.42 2024 November



編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 村上俊之
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web 版
<https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/>